JREL

情報 ひがし労

第 65 号

2023年 4月24日

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

堀口真明 中央本部執行副委員長の投稿が4月22日付の「上毛新聞」に掲載されました！

県議選の低投票率に思う

堀口 真明（安中市・59）

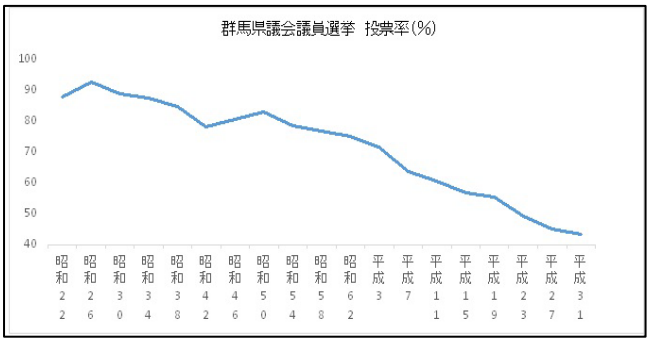
県議選で各候補者が物価高や子育て支援など県民の生活に関わるテーマを訴えたが、投票率は39・51％と過去最低を更新した。県議会の存在価値が問われている。

一方、有権者が選挙に関心が持てず、特に10代～20代の若者の投票率低下は深刻な問題だ。統一地方選は、経費削減や投票率向上のため、地方自治体の首長や議員の選挙の時期を集中させてきた制度だ。しかし、投票率の低下に歯止めがかからないのは、地方自治や民主主義の危機でもある。

子育てなどの課題を抱える他の年代と比べ社会との接点が少ないかもしれないが、新しい風を吹き込む若者が政治に参加しなければ、社会全体が停滞してしまう。

投票率を上げるために選挙期間中、各候補者が公民館や商業施設、学校で「合同演説会」を開くべきだ。公選法では、各候補者の合意があれば開催できる。有権者の公約や考え方を一度に聞ける貴重な機会だ。メディアも新聞で選挙関連記事を掲載するだけでなく、選挙期間中に学校にも紙面を配布し、各候補者の政策周知を図るべきだ。そうすれば、自分の生活や地域のことを考え、誰に託すのかを選択できる好機になる。地域の未来へ自覚と行動が大切だ。

選挙に関心が持てず 投票率は低下、問われる 議会の存在価値



群馬県議会議員選挙の投票率の推移

ⓒ群馬県選挙管理委員会

平成 19 年	55.51％
平成 23 年	49.08％
平成 27 年	45.14％
平成 31 年	43.49％
令和 5年	39.51％

これまでの群馬県県議会議員選挙で投票率が最も高かったのは 1951 年の 92.48％です。79 年以降は右肩下がりで、2011 年に 49.08％と初めて５割を下回り、15 年に 45.14％、19 年に 43.49％と歯止めがかかりません。また、無投票は過去最多に並ぶ９選挙区に上り、「なり手不足」に加え、人口減少やコロナ禍で地域の人間関係が希薄になり、選挙組織をつくるための「支持者不足」が生じています。23 日に行われた統一地方選挙後半戦、群馬県内の全８市が選挙戦になった市議選に対し、６町村議選が無投票、さらには定数割れの自治体も発生しています。これらのことから地方自治や民主主義の危機が迫っています。